

## JSAPD 九州抄録

### 論理的に考えるスマイルデザイン

自然なスマイルを生み出すことは審美領域の補綴治療において常に要求されるものであるにもかかわらず、どの患者にでも当てはまる便利な方程式のようなものは残念ながら存在しない。また、審美という結果は歯科医師の力量やエゴに左右されてはならないし、文化的な背景や、「生理的に」受け入れられるという感覚も尊重しなければならない。したがって主観的な面が強い印象の強い審美治療ではあるが、本当に高いレベルの審美的な治療結果であればあるほど、そこには綿密な情報収集や治療計画、様々な基本的原則と意思決定のプロセスが含まれている。

美しいスマイルというのは単純に歯を白くすることではないし、歯を削ってあとは歯科技工士に任せっきりのものでもない。

綿密な診査と計画、そして最終的なディジションメイキングは必ず歯科医師が行わなければならない。その際には経験や感覚も重要だが、様々な建築物や美術作品において過去何百年にも渡り使用されてきた視覚認識の原則を理解することによって、1本の歯から顔面全体の調和までを含めた審美治療を、論理的に根拠と自信をもって遂行することができるようになる。

今回は個人の主観やカンに頼り「たまたま」うまくいった結果ではなく、様々な文献をもとに論理的に説明可能な美しさを得るために押さえておきたい原則についてお話しさせていただきたいと思います。

つきやま歯科医院専門医療センター 天神

米国補綴専門医 木戸淳太